６-28　　実践協力校における実践
事例㉘　　寒川町立旭小学校（６年生・社会科）
「私たちにとっての政治～学校の課題を解決しよう！～」

Ⅰ　町全体における取組

寒川町の教育では、「よく学び よく遊び よく生きる」を基本理念として掲げています。「学び」と「遊び」の充実により、豊かな自己を生涯にわたって育てること（＝自立）と人と人のつながりを育むこと（＝共生）の双方が同時に高められることを「よく生きる」と、とらえています。そして、学校教育においては、不易の面として、知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体『健やかな心身）の力を身につけること、また、流行の面として、情報技術への対応や多文化共生社会の担い手となってグローバル社会を生き抜く力を身につけることを目指しています。各校は、授業力向上や学級経営などをテーマとして校内研究を進めており、小・中学校合わせて８校というスケールメリットを生かし、町全体で研究事例を共有するとともに、課題解決に向けての相談や助言を互いに行っています。



近年は非認知能力の育成にも力を入れており、コミュニケーション力や意欲、忍耐力といった、これまでも教育実践の中で大切にしてきた資質・能力を、より意図的に伸ばすよう心がけています。

こうした学校教育における様々な取組の中には、子ども同士が多様な考えを交換しながら意思決定を進めていく過程が数多く含まれており、社会の担い手としての成長を支えています。自分たちで課題を見つけ、自分たちで改善策を考え、合意形成を図った上で、協働的に実行する、といった学習の形は「政治的教養を育む教育」の一つの形であると考えられ、寒川町の実践協力校ではこうした学習の流れを意識した実践を行いました。

Ⅱ　取組の様子１（寒川町立旭小学校・６年生　社会科）

①　単元計画

１．単元名

「私たちにとっての政治～学校の課題を解決しよう！～」

２．単元の目標

より豊かな学校生活を送るために学級や学校の課題を見出し、自身の考えと他者の考えを比較しながら課題解決に向けて話し合い、よりよい解決策を思案することできる。

ボイントになる
主な学びのプロセス

・学級や学校の課題に気付く
・課題について考える
・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

３．指導計画（14 時間扱い）

	ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
行事	５月　国会議事堂見学 国会議事堂見学を行い、国会議員の話を聞くことで政治の働きについて関心を深めた。
1	◇年齢ごとに必要な支援や人口構成の変化を調べ、少子化・高齢化や人口減少などの課題を抱える社会における政治の働きの大切さについて考え、表現する。 ◆資料から年齢とともに必要な支援が変わることや少子化・高齢化・人口減少が進んでいることを読み取り、政治の働きの大切さを考える。
2	◇身近な地域の様子や住民たちの願いに着目して、人々の願いをかなえるための政治の働きについての学習課題をつくり、学習の見通しをたてる。 ◆教科書に掲載されている浜松市の人口やまちの様子、さまざまな人々の願いを読み取り、願いを実現する政治の働きについて学習課題をつくり、学習計画を立てる。
3	◇住民の子育てへの願いを調べ、住民の願いをかなえる政治の働きを捉える。 ◆教科書に掲載されている浜松市が行っている子育て支援の取組について調べ、それらがつくられた目的について考える。また、寒川町にも似た取組があるか調べる。
4	◇市役所や市議会の働きを調べ、住民が選挙を通して政治に関わっていることを捉える。 ◆「子育て支援ひろば」が実現する過程を調べ、住民が政治にどのように関わっているのかや、市役所や市議会、県や国の果たしている役割をつかむ。
5	◇教科書に掲載されている浜松市の高齢者福祉事業の取組や、寒川町での取組を調べ、誰もが安心して生きがいのある生活を送るために政治の働きが必要であることを捉える。 ◆浜松市の高齢者福祉事業の取組や寒川町での取組を調べ、社会保障の役割や少子化・高齢化、人口減少によって起こる問題について考える。
算数	５月「データの見方」 人口ピラミッドを読み取り、統計資料に基づいて考察を深め、自分の考えを表現した。
6	◇少子化・高齢化、人口減少に対する取組を調べ、社会の課題の解決には政治の働きが不可欠であることを捉える。 ◆少子化・高齢化や人口減少によって起こる問題に対する国や各地方公共団体の取組を調べ、政治の役割について考える。

7	◇学習してきた社会の問題や人々の願いに対する政治の働きについてまとめ、暮らしと政治の関わりについて考える。 ◆神奈川県や寒川町、隣接する市町村の課題を解決し人々の願いを実現する政治の働きについて調べてきたことをまとめて、プレゼンテーションを行う。
国語	５月「みんなで楽しく過ごすために」 たてわり活動を、最高学年としてどのようにして進めていくか話し合った。安全面、遊びの内容、遊びについての説明の仕方などを話し合った。
行事	６月　授業参観 「授業参観の際に、教室がわからなくて困っている保護者の方がよくいる」という課題を解決するために、「教室はこちら」の看板をもち、保護者を教室まで案内する取組を学年児童の有志で行った。
国語	７月「聞いて、考えを深めよう」 自分たちの学校のよいところについて話し合い、学校を支えている人にインタビューを行った。
行事	９月　修学旅行 実行委員会を中心に、自分たちで考えた修学旅行でのルールやマナーの徹底をした。ホテルでの館内放送や結団式、解散式も自分たちで考えて実施した。
行事	10 月　運動会 児童係として放送や審判など運動会の運営に携わった。
8	◇自分たちの学校生活を振り返り、身近な課題に気付く。 ◆校内の様子（安全、ルール、活動など）から気付いた課題を、学習アプリに記録する。
道徳	10 月「６年生の責任って？」 ６年生の役割を自覚し、協力して学校生活を充実させるためには何が大切か話し合った。
9	◇各自が見つけた課題について、クラス全体で共有し、クラスで解決を図る課題を決定する。 ◆課題をクラスで共有し、クラスで解決を図る課題について合意形成を図る。
10 （本時）	◇選定した課題に対して、解決に向けた具体的な方法を考える。 ◆パネルディスカッション形式で意見を出し合い、合意形成を図りながら解決策を絞る。
11	◇話し合いの内容を整理し、提案としてまとめる。 ◆話し合いの結果をもとに、提案文やスライドを作成し、提案に向けた資料を整える。
12	◇提案を効果的に伝えるための準備と練習を行う。 ◆提案の構成を考え、話し方や資料の見せ方を工夫して練習する。
13	◇自分たちでまとめた考えを教職員に向けて提案する。 ◆学校長を含む教職員を招いて、クラスでまとめた提案を行う。
14	◇活動を振り返り、今後の自分の行動につなげる。 ◆提案活動を通して気付いたことや学んだことを振り返り、今後の学校生活や地域との関わり方を考える。

ポイント１

ポイント１

国会見学から学校長を含む教職員への提案までを含めた授業展開

国会見学を切り口に「私たちにとっての政治」と示すことで、子どもの実生活と学びを関連付けた授業づくりが効果的でした。また、子どもたちが話し合った内容を、実際に学校長を含む教職員へ提案することまでを含めた構成にすることで、「自分たちの声から学校生活の改善に向けて検討された」という有用感を実感できるようになっています。

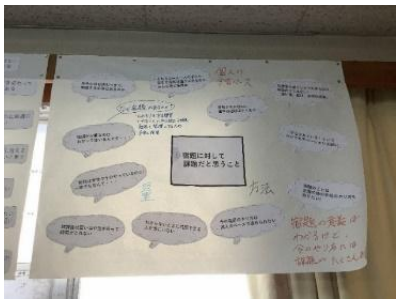
② 本時の様子

○ 本時の目標

学校の課題として見出した「宿題の在り方」について、根拠をもって自分の考えを主張し、他者と意見を交わしながら、自分たちの実態に沿った解決策を考えることができる。

○ 本時の展開

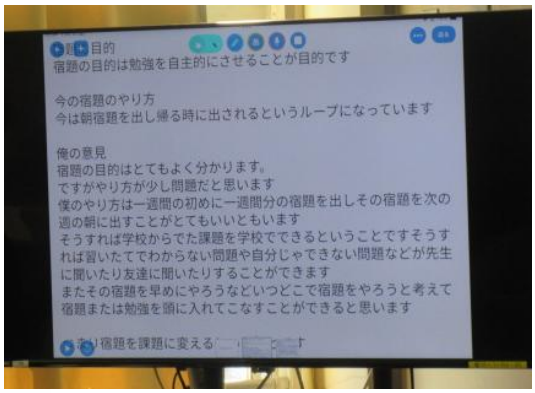
<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ</th><th>ポイントになる
学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>前時</td><td colspan="2">【学級・学校の課題に気付く】
学校生活を送る中で気付いた課題を学習アプリに入力する期間を一定期間設け、日常の生活の中から課題を見出す意識を醸成した。</td></tr>
<tr><td>導入</td><td>○自分たちで見つけた学校の課題について確認し、本時の学習の見通しをもつ。
今日は改善案として示す「宿題の在り方」の具体について検討する時間です。
困り感を明確にしながら、対策を話し合っていきましょう。

先生
学校への提案に向けて、宿題の在り方を考えよう。
<table><tr><td></td><td></td><td>児童が提示した案</td></tr><tr><td>A</td><td>頻度</td><td>宿題の提出を週に一回とする。(総量は変えない。)</td></tr><tr><td>B</td><td>媒体</td><td>タブレット端末を持ち帰り、AI ドリルを宿題とする。</td></tr></table>※AI ドリル…AI（人工知能）を活用して学習者の解答データ、正答率、学習時間を分析し、一人ひとりの習熟度や苦手分野に合わせて自動的に最適な問題を出題する個別最適化されたデジタル教材。</td><td></td></tr>
</table>

展開
①

○代表児童によるパネルディスカッションを行う。

【A 案】
毎日提出するのではなく、週あたりの量は変えずに、提出を週１回にすると良いと思う。



習い事もあるから、自分のペースでできて助かる。

宿題をため込んじゃう人が多くなりそう。その結果、宿題の提出率や取り組む量が低下するんじゃない？

【B 案】
タブレットを持ち帰り、AI ドリルを導入すると、提出率が高くなると思う。

自分の学習状況に合わせた課題が出題されるから、みんなと同じ宿題の時よりも取り組みやすくなりそう。

宿題に関係ないことに使う人が出てきそう。

【課題について考える】

パネルディスカッションを行うことで、パネリストと聞き手が対話をとおして様々な立場から意見を交換することで、解決方法をより具体的に提案できるようにした。

目指す子どもの姿

宿題の在り方に関する課題に気付き、他者との考えと比較しながら自身の考えを深めることができる。

展開
②

○合意形成を図る。



それぞれの良さを生かした方法はないかな。

ポイント2

- それぞれの案について、良い点と懸念される点がありましたね。
- 折衷案や新しいアイデアも含めて、もう一度自分の考えと比べながら、より旭小の６年生の実態に適した宿題の在り方を考えましょう。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>

A案の前提は、ぼくには当てはまらない。毎日提出だから習慣化できていた。週に１回の提出なら、ため込んじゃうと思う。

その場合、提出は週に１度だけど、これまでどおり毎日分割して取り組めばいいと思うよ。



お試しの期間を設定してみたらどう？

たしかに。試した結果を基に判断すれば、みんな納得できると思う。

</td>
<td>
【他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する】

合意形成に向けて、それぞれの主張を基に改めて自分の考えを見直し、考え深める学習展開とした。
</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ</td>
<td>
〇話し合った内容を振り返る。

「意欲の向上」と「習慣化」が中心となって議論されてきたね。

決めるための基準をつくるために、何のために宿題があるのかを、みんなで話し合う必要があると思う。


その目的に対して、旭小の６年生は実際にどう捉えているかも調べたいね。
</td>
<td>
【自分自身を振り返る】

振り返りを通し、言語化することで、ぼんやりした自分の考えを再構築できたことが確認できるようにした。
</td>
</tr>
</table>

ポイント2

合意形成を図るための指導の工夫

・合意形成の捉えは多様なため、学習のねらいに応じた合意形成の形を想定し、子どもと共有した上で活動を行うことが大切です。そのため、まずは授業者による定義付けが必要だと考えます。
・また、子どもたち全員の合意を目指しますが、実際はそうならないことが多い状況でも、目的に沿った多数の視点から、折り合いをつけながら決定していくプロセスを経験することで、合意形成の難しさや実情を体感できる授業展開が効果的でした。

③　研究協議

１．研究協議のテーマ
「児童は合意形成に向けて『他者の考えを聞き、自分の考えを再構築』できていたか」
２．成果と課題、参観者の意見

成果

・子どもたちは課題を自分事として捉え、提案者から示された案と自身が抱く宿題の課題意識を比較しながら合意形成に向かっていた。

・目指す子ども像に沿って表出された子どもの姿を丁寧に見取り、つなげながら、授業が進められていた。
・発言からだけでなく、振り返りの入力からも、考えが変わったり、元からの考えに自信をもったりするなど、自身の考えを深めている様子が見られた。

課題

・本時で目指す「合意形成」の定義が、教員と子どもたちの両者でまだ開きがあったため、意見を比較したり、練り上げたりすることに負荷がかかっていた。
・子どもたちによって、「宿題の目的・意義」の捉えが多様な状態だったため、合意形成を図ることに難しさを感じた。
・発言以外の意思表示をその場で示せる手段があると、発言していない児童の考えやその割合を視認することができ、同じ時間でも内容が濃くなると感じた。

④　事後の取組（指導計画 13）

当該学級から学校長を含む教職員への提案



毎日提出している宿題を、週あたりの量は変えずに、週１回の提出へ変更することを提案します！

宿題の意義について理解した上で、自分たちにとってよりよい学習をするための提案であると受け止めました。みなさんの提案をもとに、先生たちと宿題の在り方について再検討する機会を設けます。





自分の学習課題に応じた宿題ができるよう、AI ドリルを取り入れてほしいです！

皆さんの声を取り入れ、まさに、AI ドリルを授業で試験導入しはじめたところです。３学期から宿題で活用するかどうかや、活用する際のルール等については、先生たちと改めて相談して決めたいと思います。



※AI ドリル…AI（人工知能）を活用して学習者の解答データ、正答率、学習時間を分析し、一人ひとりの習熟度や苦手分野に合わせて自動的に最適な問題を出題する個別最適化されたデジタル教材。



活動を終えた児童の振り返り

私はこの学習をとおして、自分たちで見つけた学校の課題に向けてみんなで考え、解決することができました。
今回学んだ話し合い方は、将来役立つと思ったし、みんなで考えて話し合うことで解決策が実現する可能性が本当にあるということを学べました。

クラスとして取り上げる課題が決まるまでは何が一番実現可能かを考えました。クラスとしての課題が決まってからは、そのメリット・デメリットの両方を考えて、一番いい案を採用できるよう取り組みました。また、今日この場で案が通るように最善を尽くすことができ、自分たちで話し合って決めていくことの楽しさを感じました。

自分の意見だけでなく、出てきたすべての意見を尊重しながら話し合うことができました。メリットをたくさん示したり、デメリットへの対策も考えたりしながら、日常の課題を強みに変える意識をもつことができました。